

講義名	(対面)*スポーツ科学演習A(バスケットボール/バドミントン)		
科目区分	健康スポーツ科学		
担当教員	森下 純弘		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
平均寿命の高まり、健康志向が強まっている。レクリエーション・スポーツ等の多くの種目を学ぶことで、スポーツの機会に触れ、生涯スポーツとして資することを目的とし、また将来にわたって健康に生きる力を身につけることを目的とする。そのために、ルールをしっかりと学び、自らの手で運営できるように主体的に行動すること。さらには、生涯スポーツとして、男女問わず学生同士が楽しく参加できる機会をしっかりと考え、楽しさを覚えることでその種目を深く知るきっかけを作り出すことを目的とする。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 「健康」獲得の方法を体得できるようになる。 歴史やルール、基礎技術等を理解し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。

提出課題
前半種目について、実際に触れたことによる、生涯スポーツの視点からの振り返りを中間期のレポートに課す。また、後半種目について、ボールフィーリングと戦術をすることでこの競技に対してどのようにアドバンテージが得られるかについてのレポートを提出する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック
それぞれの課題に対して、授業で講評・解説等を行う。

評価の基準
<p>授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。</p> <p>授業中の評価：受講態度・実技点など.....80%</p> <p>中間期の評価：レポート課題.....10%</p> <p>期末期の評価：レポート提出.....10%</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、その時に詳細を伝える。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>初回ガイダンス時の説明は重要です。</p> <p>スライドを用いての説明の為、欠席すると説明が出来ませんので注意してください。</p> <p>また、スポーツが苦手な者も楽しんで講義に参加し、体力の維持向上に関心を持って頂きたい。</p>

教科書
.特になし。

プリント資料及び参考文献
授業内容により、適宜プリントを配布する。

授業計画
履修者数やグループ数・メンバー数に応じる為、下記は一例となります。
<ol style="list-style-type: none"> 1回 ガイダンス 2回 個人技術の習得 3回 個人技術の習得 4回 チームプレーの習得 5回 チームプレーの習得 6回 簡易ゲームの企画運営 7回 簡易ゲームの企画運営 8回 スポーツインテグリティを考える(講義) 9回 個人技術の習得 10回 個人技術の習得 11回 チームプレーの習得 12回 チームプレーの習得 13回 簡易ゲームの企画運営 14回 簡易ゲームの企画運営 15回 まとめ
<p>新型コロナウイルスの状況により、接触の恐れのある練習内容については実施できないこともある。</p> <p>その場合については、到達目標を優先するため内容を変更することがある。</p>

授業形態(アクティブ・ラーニング)
<p>A: PBL(課題解決型学習)</p> <p>I: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>U: ディスカッション、ディベート</p> <p>E: グループワーク</p> <p>O: プレゼンテーション</p> <p>C: 実習、フィールドワーク</p>

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
ルールや技術、練習方法について、15分程度で良いので本やインターネット等で事前に調べておくことが望ましい。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
「本科目については対面授業のため、実技を中心とした授業展開となる。」ただし、「新型コロナウイルス予防対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、オンラインによって授業を実施することになるので留意すること」

実務経験の有無及び活用

備考